



栽培計画	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
春まき栽培			○	●		①						
初夏まき栽培					○	●			①			
秋まき栽培								○	●		①	

○ 種まき ① 収穫 〰 トンネル被覆

パセリ（セリ科オランダゼリ属）

野菜は文化です。野菜の種は、人と情報が多い所に集まります。都があった奈良・京都、参勤交代が行われた江戸、開港した横浜に種苗商が栄えました。パセリは18世紀にオランダから長崎に伝わり、オランダゼリともいわれ、種は明治時代からは横浜港に多く入荷しました。

キッチンガーデンという言葉が多く使われるようになったのは、「ガーデニング」が新語・流行語大賞トップ10に選ばれた1997年ごろからでしょうか。キッチンガーデンは直訳すれば台所の庭。台所にあつて重宝するのがパセリです。

パセリは料理の添え物というイメージが強いですが、ビタミンやカルシウム、鉄分を多く含んだ利用価値の高い野菜です。サラダやスープ、天ぷらなどにも使用されています。

国内の栽培は縮葉種（カーリーパセリ）がほとんどでしたが、近年は平葉種（イタリアンパセリ）も増えています。太った根を食用とする品種（ルーツパセリ）もあります。



国内の栽培は縮葉種（カーリーパセリ）

パセリは一度にたくさん食べるものではないので、ベランダでプランターや6号（18cm）以上の鉢で栽培すると良いでしょう。パセリの苗は一年中売られています。

種からでも簡単に育てられます。春まき（3〜4月）、初夏まき（6月）、秋まき（8〜9月）ができます。日当たりと風通しの良い、冬に北風の当たらない場所です。

プランターや鉢に市販の培養土を入れ、株間10cmで4〜5粒の点まきをします。好光性種子なので、覆土はごく薄くします。発芽するまで乾燥しないように気を付けます。順次間引きし、本葉4〜5枚までに1本立ちにします。追肥は1000倍の液肥を1週間置きに施します。水やりは朝や夕、夕方に土の表面が乾く程度にします。

本葉が15枚以上になったら、下から2〜3枚ずつ収穫していきます。株が弱らないように、いつも10枚以上の葉を残すようにします。

JAグリーン
津店が教える！
パセリ
栽培のポイント！



（土）

酸性の土壌には不向きのため、庭植えをする場合は石灰を混ぜ込んでアルカリ性にしましょう。



（病気）

立枯病・うどんこ病・軟腐病に弱いので、水はけのよい土でこまめに葉を取り除いて風通しを良くすることで防止しましょう。

（花茎つみ）

花をつける時期は花茎つみ（ついた花をつみ取る）が必要です。花をつむことで栄養が葉に行きわたり、葉の育ちがよくなります。

（収穫）

一気につんでしまいがちですが、1株につき一度に10枚までにしましょう。一気につむと生育が悪くなります。また、何枚かの葉を残すことで、後に出てくる葉の生育がよくなります。

サトイモ

あなたも今日から 栽培名人

板木技術士事務所 板木利隆



栽培計画	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
露地普通栽培				🌱					🍠			
露芽出し栽培			🌱	🌱				🍠				

🌱 フレーム内催芽始め 🌱 植えつけ 🍠 収穫



サトイモの収穫と上手な貯蔵のコツ

サトイモの主成分はでんぷん類、このでんぷんは加熱すると糊化し、消化吸収しやすくなります。カリウムは芋類の中では最も多く、高血圧予防に効果的です。

タンパク質、ビタミンB群、Cなどを多く含み、栄養価が高いのが特徴、しかも食物繊維も豊富で水分に富み、意外に低カロリー、体重が気になる方にもお勧めです。

秋になって盛んに育ち、芋が肥大したサトイモは、晩秋に入ると育ちが止まり、収穫期を迎えます。

収穫適期の目安は、葉の緑が黄化し始め、葉が少し垂れ気味になった頃です。サトイモは寒さに弱く、1〜2回霜を受けただけで葉は容易に枯れてしまいますが、この頃が収穫の限界です。掘り遅れると品質を損ねるだけでなく、貯蔵した場合の故障芋が多くなってしまう。

収穫するに先

立って、図のよう

にあらかじめ

葉身を地上5〜

6 cmの高さで、

鎌で刈り取って

おきます。芋や根は強大に

太っているの、株の側方

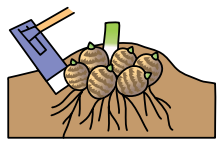
に大きくくわを打ち込ん

で、子芋や孫手を外さない

よう注意して、株全体を丁寧



あらかじめ葉と葉柄を切り取り、作業しやすくしておく



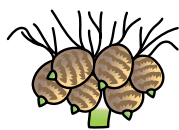
芋が外れたり傷ついたりしないよう注意して掘り上げる

すぐに利用する場合は、その場で全ての子芋、孫芋、ひ孫芋を親芋から取り外します。多数の株を効率よく取り外すには、外側の外れやすい子芋を取り除き、残った株を手で持ち上げて、大きなビール瓶などで横から強く打つと、案外傷つかずによく外れ落ちます。

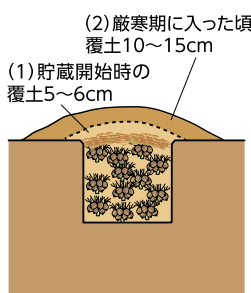
貯蔵する場合には、子芋、孫芋などを外さないよう、特に注意して取り扱います。外れてしまうとその傷口から傷み始めるので、貯蔵中の故障株が多くなります。

貯蔵する場所は排水の良い畑を選んで、幅40〜50 cm、深さ60 cmぐらいの貯蔵穴を設けます。そして掘り起こした株を丁寧に運び、地上部の切り口を下方に向けて丁寧に積み重ね詰め込みます。反対に詰める子芋が離れやすく、傷口から腐敗する芋が多くなります。

貯蔵穴を全部詰め終わったらその上に麦わら、稲わら（カヤが得られれば最高）などで覆い、5〜6 cm覆土しておきます。さらに厳寒期に入った頃に10〜15 cmの覆土を追って寒さから守ります。



切り口を下に向けて詰め込む



(1) 貯蔵開始時の覆土5〜6 cm
(2) 厳寒期に入った頃 覆土10〜15 cm

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

農業PR隊長カツラギ通信は ホームページで配信中!!

農業PR隊長カツラギ通信

検索

みてね!



カツラギ

PHOTO GALLERY

